

従来の白肉品種よりも早く収穫できる極早生モモ新品種 「ひめまるこ」

現在のモモ市場は、露地栽培された極早生品種の「ちよひめ」の収穫が始まる6月中旬以降になると急に出荷量が増加する傾向にあります。6月上旬までは生産コストのかかる施設栽培が中心で出荷量も少なく、卸売価格も高くなります。モモの生産、消費拡大のためには流通期間の拡大が有効で、「ちよひめ」よりも収穫期が早い品種が必要となります。そこで農研機構果樹茶業研究部門では、「ちよひめ」よりも早く収穫できる極早生の白肉品種「ひめまるこ」を育成したので紹介します。

☆ 技術の概要

1. 「ひめまるこ」の樹勢は中程度です。育成地（茨城県つくば市）では、開花盛期は4月5日頃で、「ちよひめ」より1日程度遅くなります。花芽の着生は多く花粉を有し、結実は良好です。収穫盛期は6月7日頃であり、「ちよひめ」より9日程度早くなります。果実の成熟日数は「ちよひめ」より10日程度短い63日です（表1）。



写真 「ひめまるこ」の結実状況

2. 「ひめまるこ」の果実は円形で（写真）、果実重は170g程度です。果肉は白色で溶質、糖度は15%程度で「ちよひめ」より高く、酸度はpH4.9前後で食味は良好です。収穫時でも核が軟らかいので核割れの発生が多くなりますが、生理落果は少ないです。裂果が少なく着色が良好なことから無袋栽培が可能です（表2）。

表1 「ひめまるこ」の樹性（農研機構 2016～2018）

品種	樹勢	開花盛	花粉	生理落果	収穫盛	果実成熟日数
ひめまるこ	中	4月5日	有	無	6月7日	63
ちよひめ	中	4月4日	有	無	6月16日	73

（農研機構 2016～2018）

表2 「ひめまるこ」の果実特性

品種	果実重 (g)	果皮の着色	裂果	果肉色	糖度 (%)	酸度 (pH)	核割れ
ひめまるこ	171	やや多	無	白	15.3	4.93	中～多
ちよひめ	207	中	無	白	14.2	4.62	少～中

（農研機構 2016～2018 無袋栽培）

☆ 活用面での留意点

1. 全国のモモ産地で栽培が可能で、特に「ちよひめ」などの極早生主力品種を栽培している地域で普及が期待されます。
2. 「ひめまるこ」の苗木は令和2年秋季から販売されています。
3. 詳細は、農研機構問い合わせフォーム (<https://www.naro.affrc.go.jp/inquiry/index.html>) にお問い合わせください。